台湾・台中市・大甲区はこんなところ

台湾は、日本の南西に位置し、面積は約3万6千平方キロで九州よりやや小さく、人口は約2，326万人(令和4年12月)です(出典:外務省ホームページ)。

台中市は、台湾本島の中央よりやや北に位置し、人口約280万人の都市です。

大甲区は、台中市の北西部にあり、人口は7万4，866人(令和5年1月末)。農業が盛んで、米やサトイモなどが生産されています。大甲区で生産された、い草を使用した帽子「大甲帽子」も有名です。

大甲区にある「鎮瀾宮(ちんらんぐう)」は、航海の神様として台湾でもっとも広く信仰されている「媽祖(まそ)」を祭る廟(びょう)です。1732年に建設され、約300年の歴史があります。また、毎年旧暦3月には「大甲鎮瀾宮媽祖巡礼」が行われ、100万人もの人が大甲区を訪れます。

鎮瀾宮

これからの交流

町と大甲区は、「友好交流都市」として、これから積極的な国際交流に取り組んでいきます。

まずは、志賀哲太郎の出身地区の「津森小学校」と哲太郎が教員として勤務した「大甲國民小学校」が交流します。

これに先立ち、西村町長たちは大甲國民小学校を見学。同校の児童数は約1，400人で、見学した英語授業のクラスは約25人でした。1人1

写真説明

右／大甲國民小学校での歓迎のポスター／左上／歓迎のステージ／左下／電子黒板とタブレット端末を使用した英語の授業